

送配電網ってなに? (下)

自由化と発送電分離

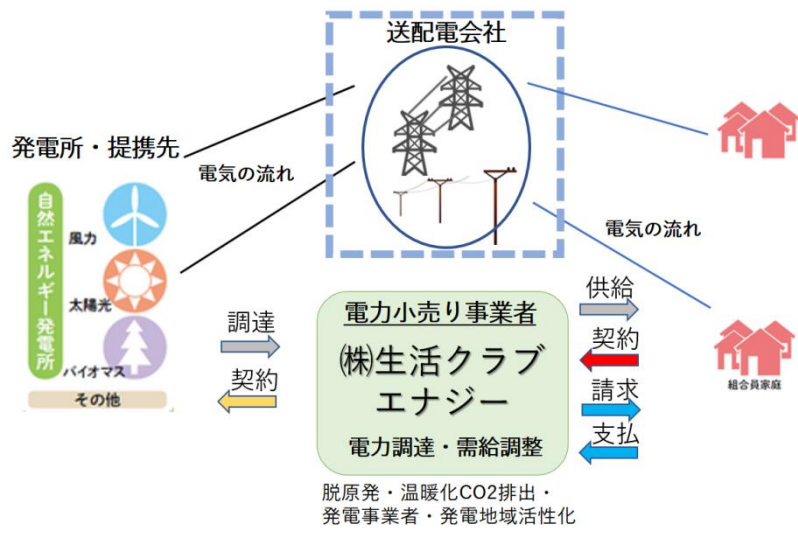
【オモテ面からのつづき】

「生活クラブでんき」に切り替えた後、どうなる?

Q: 「生活クラブでんき」に切り替えた後、電気が届く仕組みはどうなるんですか?

A: 私たち組合員は電気の小売り事業者である「(株)生活クラブエナジー」から購入することになります。「生活クラブエナジー」は、生活クラブの北海道から兵庫県までの32単協が出資・設立した電気小売り専門の子会社です。生活クラブエナジーは電気の生産者である発電元と契約し電気を調達します。太陽光や風力などの自然エネルギーにより発電された電気を留意し、これを送配電網に接続することで私たち組合員の家庭に供給します。需要と供給のバランスをとる必要があります。需給調整の責任を負います。また、組合員の家庭の電気使用量をもとに、電気料金体系をもとに計算し、請求・支払いを管理します。

生活クラブ：電気の届くしくみ



これまでのまとめ

電気契約を「生活クラブでんき」に替えると停電しやすかったり、災害時に停電があったとしても復旧が後回しになるというようなことはありません。関西電力の送配電部門が国の規制に基づいて、従来通り維持管理することが義務付けられているのです。

電気の契約を変えるってどうなる?

Q: 送電・配電が共通のものを使うという事は判りました。では、電気の契約先を変えるという事はどのようなことなのか? どうやって自然エネルギー中心の会社と原発による電気の会社を区別するのですか?

A: 電気の契約先を替えるということは、自由に「電気の会社」を選べるということです。電気も食べ物と同じで、どんな「発電方法」か、自分が電気料金を払う会社はどのようなのか、知って選べるということです。物理的な電気の流れとは違います。

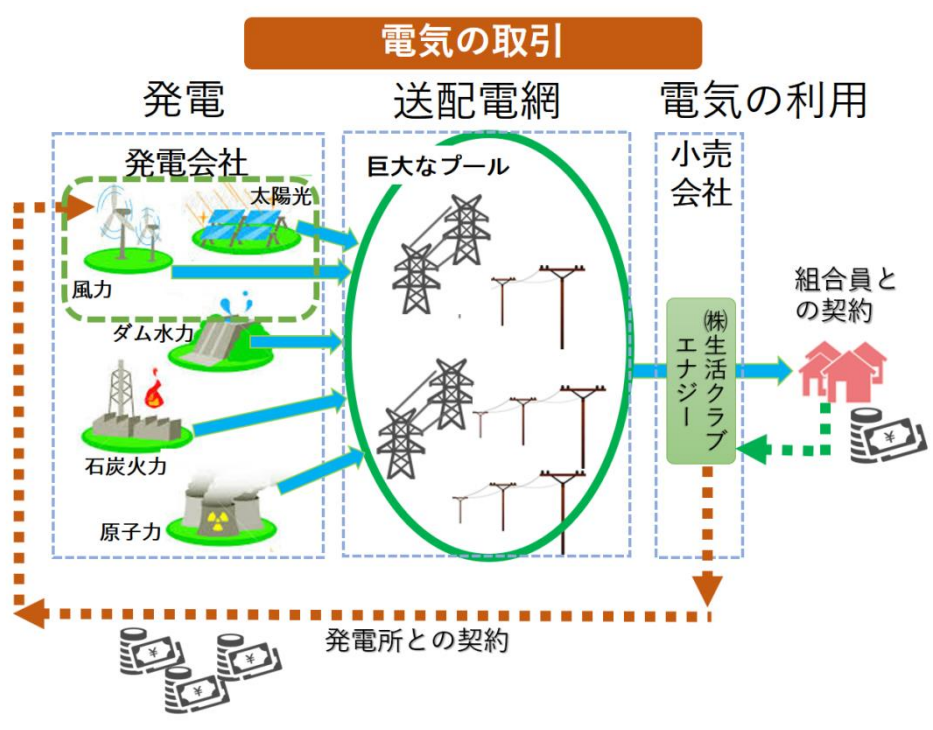
物理的な電気の流れ

例えて言うと、送配電網は電気の巨大プールのような役割を果たします。プールに入る電気は、その発電方法によらず、太陽光でも原子力や火力発電でも同じです。電気は物理的には同じ電子の流れに過ぎません。これが、物理的な電気の流れの概略です。

電気の取引

先ほどの物理的な電気の流れに対して、どこでつくられた電気がどんな量で、どこにどれだけ届けたかということ「取引データ」として記録し、管理することができます。電気を販売する小売会社と、電気をつくる発電所との間に契約関係があれば、発電所が1万kWをプールに流し、小売会社がこのプールから1万kWを利用者に供給すればよいことになります。この契約関係に基づき、お金の流れも管理されます。生活クラブエナジーが太陽光の千kW分の電気を買い取ったとし、これを複数の家庭に販売すれば、太陽光による電気を売ったこととなります。

このような仕組みを働かせるために、国全体で統括する電力システムと管理ルールが存在します。そのうえで、送配電事業者はこのための具体的な仕組みを提供します。送配電網は公共的なサービスであると考えられています。



電力全面自由化の意義

電力全面自由化以前では、関西の一般家庭では関西電力しか選ぶことができませんでした。電気代として支払われたお金は主に原発や石炭火力中心の電源と送配電分野に使われてきたわけです。電力全面自由化後、構造変化が大きく起きつつあります。自然エネルギー中心の電気小売会社を選ぶ人が増えれば増えるほど、自然エネルギーの発電所にお金がまわり、自然エネルギー発電設備が増えていくこととなります。